

PRESS RELEASE



尚綱学院大学

Passion with Mission

熱い心、響かせる

リリース日：2019年1月24日

タイトル：学群・学類設置記念講演会

「再生可能エネルギー事業と地域再生」シンポジウム のご案内

報道関係者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より本学院の教育へご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

尚綱学院大学は2019年4月の3学群5学類体制への大学改組に向けて、「時代を生き抜く力を考える」をキーワードとして、学群・学類ごとに講演会を開催する運びとなりました。

今回の講演会のテーマは「再生可能エネルギー」。東日本大震災後、急速に着目される地域再エネ事業。最新事例はどのように進んでいるのでしょうか？また、地域にはどのような効果をもたらされているのでしょうか？産学の最新取り組みを紹介し、地域に好循環をもたらす再生エネ事業のあり方を考えます。どなたでも参加できますので、お気軽にご来場ください。

記

■日 時：2019年2月3日（日）14：00～16：30

■会 場：名取市増田公民館（JR名取駅前）

■申 込：以下の申し込みフォームまたはTELにてお申込みください。

※定員100名、参加無料（当日参加可）

<https://business.form-mailer.jp/fms/b247956897343>

■内容：講演者の詳細は添付資料をご確認ください。

①講演1「再エネによる地域再生と地域経済循環」

諸富 徹（京都大学大学院経済学研究科 教授）

②講演2「土湯温泉 再エネと地域づくりへの挑戦」

加藤 勝一（株式会社元気アップつちゆ 代表取締役社長）

③パネルディスカッション

講演者2名＋コーディネーター尚綱学院大学・東准教授（環境構想学科）

■主催：尚綱学院大学環境デザイン教育研究センター

<本件に関する問い合わせ先>：尚綱学院大学総務課（吉田）

〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1

TEL 022-381-3332 FAX 022-381-3335

時代を生き抜く
力を考える

第2回 シンポジウム 再生可能エネルギー事業と 地域再生

入場無料
定員100名

地域分散型エネルギー事業の一番の特徴は、
地域に雇用などの経済効果をもたらし、地域の新しい魅力を創り出すと期待される点にあります。
本シンポジウムでは、再エネを基盤とした地域づくりのあり方を考えます。

2019年
2月3日 [日]

14:00~16:30 [開場 13:30]

名取市
増田公民館ホール
JR名取駅前
2018年12月オープン
名取市増田4丁目7-30 TEL.022-384-2432

ご来場は公共交通機関をご利用のうえお越しください。
公民館北側の併設駐車場をご利用の方は1時間無料となります。

講演 1
14:05
14:55
**再エネによる地域再生と
地域経済循環**
諸富 徹 (京都大学大学院経済学研究科 教授)

講演 2
15:00
15:50
**土湯温泉 再エネと
地域づくりへの挑戦**
加藤 勝一 (株式会社元気アップつちゆ 代表取締役社長)

質疑応答・ディスカッション 15:55-16:25

パネリスト/講演者
コーディネーター/東 愛子 (尚絅学院大学環境構想学科 准教授)

■主催
尚絅学院大学
環境デザイン教育研究センター

■お申し込み方法
●TEL.022-381-3332
(学校法人尚絅学院 経営管理部総務課・吉田)
●HP申し込みフォーム
<http://www.shokei.jp/information/detail.php?p=562>

●QRコードにて
▶▶▶▶▶▶▶▶
当日のご参加も可能です。



2019年4月 尚絅学院大学が新しく生まれ変わります。

3学群5学類制START

人文社会学群 心理・教育学群 健康栄養学群
人文社会学類 入学定員|200名
心理学類 入学定員|60名
子ども学類 入学定員|80名
学校教育学類 入学定員|40名
健康栄養学類 入学定員|80名

Passion with Mission
熱い心、響かせる



出演者紹介



講演者
諸富 徹

京都大学大学院経済学研究科 教授

1968年大阪府生まれ。1998年京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。1998年横浜国立大学経済学部助教授、2002年京都大学大学院経済学研究科助教授などを経て、2010年3月から現職。2015年4月よりミシガン大学グロティウス客員研究員(安倍フェロー)、放送大学客員教授を務める。近著に、『電力システム改革と再生可能エネルギー』日本評論社(共編著2015年)、『再生可能エネルギーと地域再生』日本評論社(共編著2015年)、『人口減少時代の都市』中公新書(2018年2月)など。他、著書多数。飯田市「再生可能エネルギー導入支援審査会」会長等の役職を歴任する。



講演者
加藤 勝一

株式会社元気アップつちゆ 代表取締役社長

1948年(昭和23年)福島市土湯温泉町に生まれる。湯遊つちゆ温泉協同組合代表理事、土湯温泉自治振興会協議会副会長を務める。また、震災直後に土湯温泉町復興再生協議会を設立、会長に就任。2012年に「株式会社元気アップつちゆ」を設立、現職である代表取締役社長就任し、「土湯温泉地域の発展と振興及び地域貢献に資する」事業を展開している。中でも再生可能エネルギーを活用したエコタウンの形成を進め、地域資源の温泉熱を利用する地熱発電「バイナリー発電所」の稼働を実現し、土湯温泉地域の復興と再生に尽力。



コーディネーター
東 愛子

尚絅学院大学総合人間科学部環境構想学科 准教授

京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。博士(経済学)。北海道大学公共政策大学院博士研究員を経て、2014年より現職。専門は、環境経済学、環境エネルギー政策。近著に、「ドイツにおけるキャパシティー・メカニズムの制度設計」諸富徹編著『電力システム改革と再生可能エネルギー』第4章、日本評論社、2015年、「安定性と柔軟性を兼ね備えた調整市場の制度設計:EUの調整市場統合からの論点整理」経済産業研究所ディスカッションペーパー、18-J-015など。

土湯温泉の取り組み



東日本大震災以来、土湯温泉では激減した観光客を取り戻すための努力を重ねてきたが、これまでの観光資源だけでは容易ではなく、新たな観光資源として、再エネに着目し魅力づくりに努めてきた。

砂防堰堤の落差を利用した「小水力発電所」、130℃の既存源泉を利用した「バイナリー発電所」の2つは本州唯一の再生可能エネルギー発電所として全国から視察の絶えない環境となった。

また、バイナリー発電後の冷却水を活用した「オニテナガエビ養殖事業」も開始。温泉街に「釣り堀」を定期的に開設し、土湯温泉地域のさらなる活性化を目指している。

尚絅学院大学の取り組み



尚絅学院大学
×
SDGs Action

尚絅学院大学は、東北を「持続可能な社会」として次世代に引き継いでいくため、SDGsを推進しています。

SDGs～持続可能な開発目標とは



2015年9月の国連サミットで採択された、2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」。17のゴール・169のターゲットから構成されています。

本企画の目的<Goal 7>



すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーのアクセスを確保する。